

演 題	クラスターを最小限に！
副 題	検査を徹底した拡大防止対策

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツシオカワフクジュノサト
施 設 名	介護老人保健施設しおかわ福寿の里
フリガナ	ジムカチョウ ハナワ マユミ
発表者(職名・氏名)	事務課長 花輪まゆ美
フリガナ	アリイ ミワ
共同研究者	有井 美和

【はじめに】

令和 2 年にコロナウイルス感染症が日本に発生してから令和 4 年末まで、施設入所者に陽性者が発生することなく感染対策に取り組んできたが、令和 5 年 1 月陽性者の発生が確認され、その後クラスターとなってしまった。当施設は全室多床室であり、陽性者が発生した時点で如何にして速やかに拡大防止対策が実行できるか日頃より課題となっていたが、実際に実行した感染拡大防止対策を振り返り、考察しまとめてみた。

【クラスター発生状況】

発生日	令和 5 年 1 月 18 日
終息日	令和 5 年 2 月 6 日

1 月 18 日に発熱症状者へ抗原定量検査を実施、陽性確認と同時に、濃厚接触者へ PCR 検査を即時実施し隔離対応とした。1 月 20 日に新たに発熱者があり、PCR 検査等を行い、新たな濃厚接触者の特定と隔離を実施、1 月 21 日に利用者・職員全員に抗原定量検査を実施。その後概ね 1 日おきに職員・利用者全員抗原定量検査を 1 月 30 日まで実施した。2 月 1 日から 2 月 6 日までは感染対策解除のために抗原定量検査を即座に対象者に実施した。

【当施設の感染拡大防止策】

- ① 徹底した感染対策
 - ・居室エリアは全てレッドゾーンと仮定
 - ・入口と出口を設定し一方通行
 - ・PPE は入口で着用、出口で脱ぎ、全て使い捨て
 - ・利用者ごとに手袋、エプロンの脱着
- ② 早期発見
 - ・発熱者への早期検査の実施
 - ・全利用者・全職員を対象とした 2 日に 1 回の抗原定量検査の実施
 - ・有症状者は定期検査を待たずに抗原定量検査を実施
- ③ 早期隔離
 - ・検査結果毎に、陽性者は速やかに入院対応
 - ・濃厚接触者・陽性者を感染者エリアに隔離しゾーニングの更新を実施

④ 慎重な隔離解除

- ・併設病院の ICT (InfectionControlTeam) の基準に準じて、抗原定量検査結果が規定値になるまで感染者エリアへ隔離 (厚生労働省の基準より長く)

【結果】

発生から終息までの期間	20 日間
利用者陽性者	7 名
職員陽性者	2 名

- ① 併設病院の協力で、迅速な PCR 又は抗原定量検査の実施が出来た。
- ② 併設病院と陽性者の状態等協議し、迅速に入院対応の調整を行い、陽性者と濃厚接触者のゾーニングがスムーズに行えた。また、濃厚接触者の発症の確定も早期に行うことでゾーニングの更新もタイムリーに行えた。

【まとめと考察】

当施設の感染拡大防止対策についての特徴は、病院併設施設の利点を最大限に発揮し、迅速な検査の実施を引き受けていただけただけの点、入院の受け入れ調整を含む病院 ICT の協力を得られた点であり、感染拡大は少人数かつ短期間に終息できたのではないかと考える。

【終わりに】

利用者・職員・職員の家族への迅速な検査の実施は、クラスターを最小限に抑えるために欠かせない感染拡大防止策の手段であった。だが一方、今回のクラスターで実施した検査は延べ 414 回、その検査費用の金額は 2,594,570 円であった。精度の高い検査を行うことは当然費用も掛かり、代償も大きい。検査費用においては補助金の対象にもならず、多額の検査費用が施設持ち出しとなってしまったことは残念でならない。しかし、抗原定量検査をしたことで数値がみえる化したことにより、職員の感染対策解除までのモチベーション維持につながったのではないかと考える。